

February

令和3年4月10日

学 び の 広 場

京都市教育委員会 教員養成支援室

京都教師塾通信
No.10

第15期
「京都教師塾」



第5回教育実践特別公開講座 「小学校における英語教育」 講師: 学校指導課 藤村 徹 参与



第5回教育実践特別公開講座では、学校指導課の藤村徹参与から、小学校における英語教育について、京都市の実践をもとにお話しいただきました。はじめに小学校外国語教育導入の経緯および改革を要する背景について教えてくださいました。新学習指導要領では、小・中・高と一貫して「言語活動を通して」「コミュニケーションを図る資質・能力を育成する」という目標が掲げられています。小・中・高をつなぐことの大切さや、明示されている「言語活動」とはどういった内容を示しているのかについても話してくださいました。また、京都市の取組における指導の実際を、画像や映像を織り込みながら低学年・中学年・高学年ごとに紹介してくださり、授業の具体が少しイメージできたのではないかと思います。最後に、板書の仕方やゴールを見据えて単元計画や授業展開を考えること、現6年生の小学校英語の実施状況を知っておくことの大切さも伝えてくださいました。

皆さんが実際に現場に立つ時には、英語教育の充実に向けて更に改革が進んでいることでしょうか。子どものコミュニケーションを図る資質・能力を育成するために、皆さん自身も現状に甘んじず、今からでも英語のコミュニケーション力を伸ばす努力をして欲しいと思います。



第9回京都市教育学講座「授業づくりと評価」 講師: 学校指導課 海老瀬 隆博 参与

第9回は、学校指導課の海老瀬参与のご講義でした。これからの社会に生きる子どもたちを育てるために、学校教育で子どもの「知識の理解の質」をいかに高めるのが今後重要になってきます。そのためのよりよい授業づくりとはどのようなものか、またそもそも評価とは何かといったお話をしてくださいました。よく「指導と評価の一体化」と言いますが、教師の具体的な手だてによって教師の教え方・子どもの学び方を工夫することが「指導する」ことであり、子どもが示す具体的な事実をもとにさまざまな方法で子どもを丁寧に見取ることが「評価する」ことであり、この往還によって授業はよりよくなること、そして自らの授業を振り返り、改善し、次に生かすことが大事なのだと教えてくださいました。

最後に、今回の「授業づくりと評価」の話と重ね合わせて「あなたがなりたいと思う教師の姿」を考えて欲しい、また学び続ける教師であって欲しいというメッセージをいただきました。

分散会では「子どもの学びの姿を大切にしたい授業づくりとは？」というテーマで、前回と同様、Zoomを使って話し合いました。塾生のみなさんにとって具体を考えるには難しいテーマだったかもしれませんが、お互いの意見に対して質問したり感想を伝えたりしながら進めることもできていました。



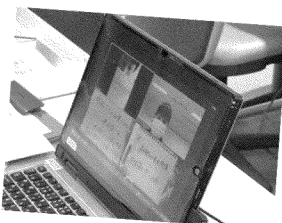
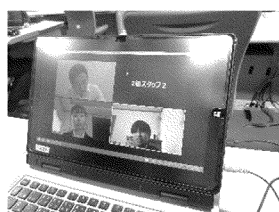
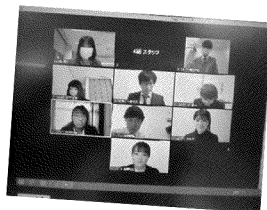
今回の講義では、知識・技能は木の中の葉の部分であり、思考力・判断力・表現力等は幹の部分であり、そして学びに向かう力・人間性等は根の部分であるという話がとても印象的でした。根の部分である学びに向かう力・人間性等は全てを支えるものであるとおっしゃっていましたが、学習だけに関わらず、何事も生徒自身が学ぼうとする姿勢が大切で、その意欲を起こさせるような授業づくりをしていくことが重要であると感じました。また、学校では、知識の増量をするのではなく、知識の質の向上をする場であるという話を聞いて、学校という場で、みんなで共に学ぶことの意義はこういうことなのだと改めて感じ、共生の観点を持って生徒達と関わり、授業をするということを忘れてはいけないなと思いました。

生徒の学びを大切に授業づくりのためには、生徒がどんな学びをするのか、生徒にどんな考え方をしてほしいのか、どんな力をつけたいのかということを具体的に考え、授業をつくることが大切だと思いました。そして、「指導と評価の一体化」とおっしゃっていたように、生徒の学びの評価は、自分の指導の評価として捉え、改善をしていくというPDCAサイクルをくり返すことが大切だと思いました。また、主体的・対話的で深い学びを実現するために、生徒の興味・関心を高められるような教材を使い、思考が深まる発問を用意することを意識して、目標へと近づくような授業づくりをしていきたいです。今後の課題としては、何事もPDCAサイクルを意識して取り組むことで、授業づくりをする上で自然とPDCAサイクルができるようにしていきたいと思います。

提示のあった「学力の樹」はとても分かりやすかったですね。学生の間にこの本を一度読んでみることをおすすめします。また、「指導と評価の一体化」において「評価する」意味や意図も理解できたでしょうか。毎時間の授業において、教師はめあてを明確にもち、授業を考える。その授業のどの場面で、どのように何について評価するのかを決めて評価をする。毎時間、その評価をすることで、生徒の実態や様子を把握することが確実にできます。そして、その評価の結果は教師自身の授業の評価として振り返ります。次の授業改善として活かしていきます。いかに「評価」することが大切なのかということを、しっかり覚えておいてください。どのように毎時間評価していくのかは、自分でも勉強してください。

京都市教育学講座⑨ Zoom 分散会の様子

2/20(土) 14:30~15:45



2/24(水) 19:00~20:15

